

営農支援情報

(第7号)

発行元：ホクレン北見支所 営農支援室

～営農のお役に立つ情報をお届けします～

(アドレス:11einousien@hokuren.jp)

●令和2年産 玉ねぎの生産動向・販売方向性について 《青果課》

- 本年産は、定植などの作業および生育は順調に推移し、肥大期には干ばつ傾向となったものの、早生・中晩生品種ともに豊作傾向となっております。また、空知・上川など他主産地においても、平年作を上回る～豊作傾向となっております。
- 全道総体で昨年並みの「豊作基調」であることや、新型コロナウイルスの影響により業態別の販売状況が例年と異なることから、需要動向を見極めた上で系統対策（適正な需給調整・販売期間拡大・加工/輸出販売など）の実行がより一層肝要になる年産と考えられます。

1. 生産動向

8/10調査結果	全道計	オホーツク	道央	空知	上川	十勝	その他
面積 (ha)	12,677	7,115	360	1,928	2,578	610	86
反収 (kg/10a)	5,860	6,080	5,190	5,330	5,970	5,010	4,590
系統取扱計画 (t)	617,140	401,350	8,580	57,760	121,950	25,120	2,380
同前年 (t)	619,190	-	-	-	-	-	-

2. 全道出荷フレーム

系統取扱計画	合計	生食	計	加工向け				用途未決数量
				事前契約	一般契約	暫定数量	他	
一般指標	587,390	400,000	171,080	72,500	10,000	83,880	4,700	16,310
加工業務用指標	29,750	0	29,750	23,620			6,130	
合計	617,140	400,000	200,830	96,120	10,000	83,880	10,830	16,310
				全道共計 190,000			内輸出30,000 t	

3. 全道 取進め方向性

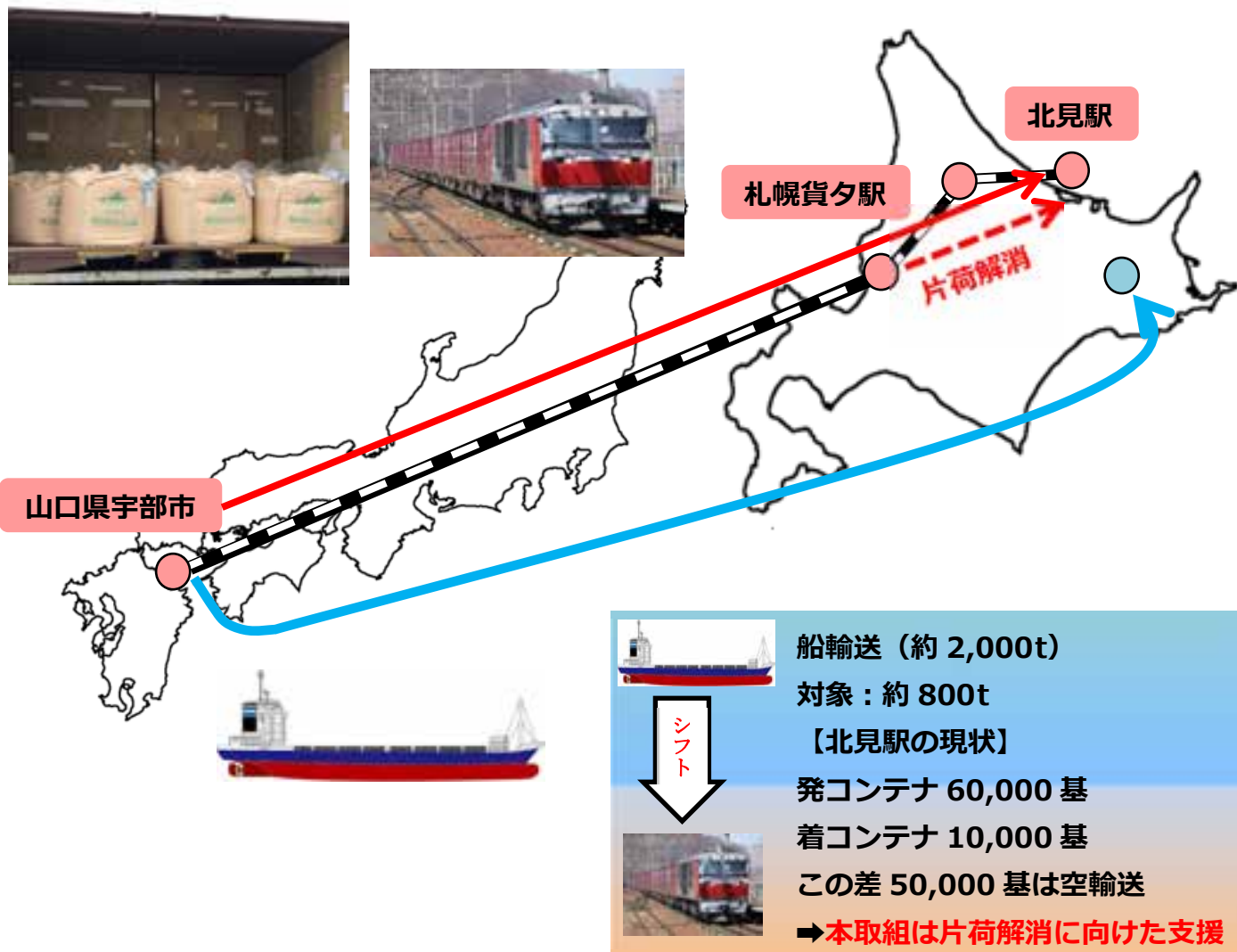
- (1) 生食向けは、中心期間(8～4月)で39万t、5月以降契約で1万t、合わせて「40万t」を基本とし各種需給調整対策を駆使しながら有利販売に努めます。
- (2) 本年のスタート時期には、府県産在庫が少なかったことから、生産者の皆様のご尽力による安定的な早出し出荷により、北海道産への切り替えはスムーズに行われました。現在は、北海道フェア等も実施しながら、出荷最盛期における売り場の確保・拡大を進めております。
- (3) オホーツク222への切替時期、倉入完了の目途が見えてきた段階では、系統対策

として、【輸出】【消費地保管】【適正な需給調整】など価格浮揚に向けた体制構築を進めてまいります。

(4) また、北見地区では5年目の取組みとなります、超遅出（5月以降生食出荷）について、取組みの安定・拡充に向けて取り進めてまいります。

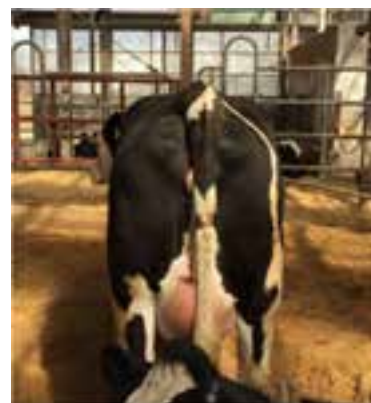
●石北線存続に向けた北見駅到着貨物の誘因について 《物流課》

本会では、JR 石北線・北見駅存続に向けた支援策として、玉葱・馬鈴薯の空段ボールのJR輸送を実施しておりますが、新たに今年3月から山口県宇部市から仕入れる肥料原料“硫安”について、現行の船輸送からJR輸送へのシフトを行いました。北海道の物流特性として、JR輸送における地方駅では農産物による発送貨物が多い一方、到着貨物が少ない“片荷状態”であることから、“発送”による石北線の利用推進の他、“到着”による片荷解消に向けた後方支援を行っております。



●モバイル牛温恵の導入効果 《訓子府実証農場 畜産技術課》

ホクレン訓子府実証農場では、分娩時の事故低減を目的として2018年7月にモバイル牛温恵を導入しました。モバイル牛温恵は、体温センサーを用いて分娩約24時間前の体温変化（**段取り通報**）、一次破水時のセンサー脱落による温度変化（**駆け付け通報**）を感知し、携帯電話にメールで通知することで分娩をサポートします。



導入後2年が経過、効果を検証するために分娩時における子牛の死産頭数・死産率についてモバイル牛温恵導入前後で比較しました。



図 各月の娩出子牛頭数と死産頭数（2017年7月～2020年6月） ※奇形による死産は除く。

表 モバイル牛温恵導入前後における分娩頭数と死産率

期間		分娩母牛頭数	娩出子牛頭数	死産頭数	死産率(%)
導入前	2017年7月～2018年6月(1年間)	166	180	26	14.4
導入後	2018年7月～2020年6月(2年間)	310	323	14	4.3

死産頭数を比較すると、導入前は最大で月5頭の死産が発生していましたが、導入後は多い月でも2頭の死産にとどまっています（図）。死産率（死産頭数/娩出子牛頭数）を比較しても、導入後の死産率は4.3%と導入前の3分の1程度になり、大きく改善しました（表）。

モバイル牛温恵を導入したことで「余裕を持った分娩準備」「精度の高い宿直の判断」「子牛と分娩後の母牛両方に余裕を持ったケア」ができるようになったと実感しています。

モバイル牛温恵は分娩開始を知らせるツールであり、これだけで事故のない分娩が約束さ

れるものではありませんが、分娩事故低減に向けた一つのアイテムとして大いに活躍してくれると思います。

●YouTube「ホクレン アグリポートチャンネル」を開設 《営農支援推進課》

営農支援推進課では、動画投稿サイト YouTube に「ホクレン アグリポートチャンネル」を新たに開設しました。

このチャンネルでは、「北海道の生産者の営農に役立つ」をキーワードに、さまざまな動画を順次公開する予定です。動画は、ホクレン営農情報誌「アグリポート」の記事と連動したものはもちろん、誌面では紹介できなかった動画なども掲載します。

ぜひチャンネル登録いただき、日頃の営農のための情報収集にお役立てください。



YouTube「ホクレン アグリポートチャンネル」は右記の2次元コードまたは下記 URL からご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UC4Dt4CyXyMsKSVtofG4dprw>



公開している動画の例（一部抜粋）



トラクター整備入門



省力化ガイド



スマート農業講座

内容に関してのお問合せやご意見につきましては、ホクレン北見支所営農支援室（担当：川口）までメールにてお願いいたします（11einousien@hokuren.jp）。